



「教え子」とともに

校長 尾崎 淳一

先週は、竜北2年生の皆さんが、「職場体験」に出掛けました。それぞれが興味のある業種を選び、働くことの楽しさや厳しさを実感することができたのではないのでしょうか。竜北中学校の学区を除いて、市内5つの小学校にも体験を受け入れていただいたので、教員の立場から学校の仕事について学んだ竜北生もいますね。今は「ブラック」と名付けられ、きつい職業の代表のように言われている教師の仕事ですが、少なくとも私の教員生活30余年で「辞めたい」はもちろん、「嫌だな」と思ったこともありません。なぜなら、何かあっても、次の朝、学校に行けば可愛い子どもたちが待っていて、共に素敵な時間を創り上げることができるからです。

これは誰にも言えない秘密の話ですが、私には「**2人の隠し子**」がいます。妙な誤解をしないでくださいね。もっと丁寧に表現すると、「誰にも言わずに**隠し**ていたけれど、**2人の教え子**が、今、竜北中学校の教員として活躍している」ということです。ここでは、仮に「**Aさん**」「**Cさん**」として、その**2人の「よさ**」を紹介しましょう。

- 中学2年で担任した**Aさん**は、当時からとても優しい心の持ち主で、常に周りのことを考えた言動ができる、爽やかなリーダータイプの少年でした。そのため、男子にも女子にも好かれ、厚い信頼を得ていました。運動能力も優れ、得意のサッカーはもちろん、リレーや長距離継走でチームの中心として活躍するなど、私と並ぶアイドル的な存在でした。
- 中学1年で担任した**Cさん**は、人懐っこく、元気で素直な少年でした。ちょっぴり短気で頑固な一面もありましたが、それは自分の想いや考えをしっかりと発信できる、彼の長所でした。困っている仲間がいれば、声を掛けずにはいられない人情に溢れた人柄は、周りの全ての人を温かい気持ちにさせるもので、私と同様に誰からも愛される存在でした。

Aさんと**Cさん**の中学校での同級生は、他に2人が知立市の教員として頑張っています。そして、その4人には共通点があり、私は全員を担任しているのです。ただ、間違っ
てはいけませんよ。私は、「担任がよかったお蔭だ！」などとは少ししか思っていない
から。そもそも30歳を過ぎたばかりの青年教師だった私は、昔も今も無色透明、
影が薄く印象に残らないので、**Aさん**も**Cさん**も、私のことは覚えていないはず
です。

「あまり覚えてないですね。すみません……」「はあ？そんなの全く覚えてないっす！」
と言われるのが怖くて、本人たちには聞けません。私は、国語教師として「日本語の美
しさ」「日本文学の素晴らしさ」を授業で真剣に語ってきたつもりなのですが……。

Aさん、**Cさん**がいつ、どのように教師を志したのか、私は
知りません。それでも、きっと大きなきっかけがあったこと
でしょう。やはり、中学生時代に憧れを抱くような担任に出会
えたことが、有力な理由と推察しますが……。竜北2年生の皆
さんにとって、職場体験が将来を見つめる手掛かりとなれば嬉
しく思います。私は教師になれて幸せです。教え子と同じ職場で、
「**竜北生のために**」と同じ目標のもと働けるのですから。さあ、
将来の夢に一步踏み出しましょう。「**竜北2年生、Go!!**」



「職場体験」は、キャリア教育の一環の重要な活動です。しかし、コロナ禍以降は受入
れ先が減少し、全国的に実施が難しい状況となっています。本校では市内外の企業や店舗、
市内小学校や保育園等のご協力を得て、今年度も充実した体験を行うことができました。
保護者の皆様にも、さまざまな面でお力添えいただきましたこと、心より感謝いたします。

(令和7年6月24日)